

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>生徒も教職員も生き生きと学び続ける学校</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全ての生徒が進路希望を実現するために、学力の向上を図るとともに将来を見据えたキャリア形成を段階的に支援する 2. 授業、学校行事・部活動、さらに探究学習等のすべての教育活動を通じて、たくましく、しなやかにグローバル社会を生き抜く力を育む 3. 国際教養科を設置する高等学校として、四技能を総合的に伸ばす英語教育・国際理解教育の充実を図る
--

2 中期的目標

<p>1. すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援</p> <p>(1) わかる授業の実践・学習への動機づけ等の取組による学力の向上</p> <p>ア 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、互見授業・公開授業・研究授業等を通じて組織的な授業力向上の取組を行う</p> <p>イ 到達度テスト(国数英)等を活用し、授業と自学自習により、1・2年次において基礎学力の定着をはかる</p> <p>ウ 自学自習の習慣を確立する 小テスト・朝学・補習・講習・教育産業の実力テストや動画学習・講座等様々なアプローチをする</p> <p>(2) キャリア形成の段階的支援</p> <p>ア 進路指導部を中心に、進路指導戦略を明確にし、その共有のもとに効果的な進路指導を行う</p> <p>イ 「花園キャリアプラン」に基づき、すべての教育活動を通じて、考える力・発信する力・行動する力・協働する力を育み、最後までやり抜く力を身につけさせる</p> <p>ウ 探究的な活動を通じて、社会や世界の課題に目を向け、未知なるものに果敢に挑戦し、意見の交換・調整を通して仲間とともに課題を解決する力をつけ、自尊感情を高め、予測不能な21世紀社会を生き抜く力を育む (平成29年度学校経推進費)</p> <p>(3) 社会性の育成と学習環境の整備</p> <p>ア 挨拶の励行などのマナーや遅刻防止・TPOに合わせた服装等の指導を推進し、社会性を育む</p> <p>イ 授業の「場」を意識し、より集中して学習できる環境を維持する</p> <p>ウ 校内美化を推進し、落ち着いて学習に取り組むための清潔、快適な学習環境を保つ</p> <p>エ 施設の改善や教科指導に活かせるよう、限られた予算を効率よく使い、節減に努める</p> <p>※2020年度までに「学校教育自己診断」の「授業への集中」の生徒「そう思う」を40%台に(H29:38%)、「自学自習の習慣」の肯定率を50%台後半に(H29:50%)、「進路意識の確立」の肯定率を80%台(H29:78%)とする。また、国公立大と難関私立大(関関同立以上)の合格者数100をめざす。さらに、探究的な学習を継続的にを行い、卒業時の生徒アンケート「探究学習を通じて成長できた」の肯定率90%をめざす。</p> <p>2. 英語教育、国際理解教育の一層の充実</p> <p>(1) 国際教養科の取組を発展させ、両学科ともに英語四技能を総合的に伸ばす英語教育の充実を図る</p> <p>ア 四技能を総合的に伸ばす指導方法を研究するとともに、ネイティブ英語教員を最大限に活かせる英語教育体制を構築する</p> <p>イ 英語検定の準2級以上の合格、英語学力調査スコアのレベル4以上、TOEIC受検等資格取得に挑戦させる</p> <p>ウ 国際理解教育を推進し、生徒の視野を広げ、海外語学研修や留学に挑戦させる</p> <p>※2020年度までに、「学校教育自己診断」の生徒の肯定率「英語教育・国際理解教育」90%台維持(H29:94%)また、英語検定準2級以上の合格率を40%に(H27:33%)英語学力調査グレード4以上を20%台後半をめざす(H29:23.9%)</p> <p>3. 地域との連携や社会との繋がりによる人間力の育成</p> <p>(1) 自主的な活動の活性化</p> <p>ア 学校行事や部活動を通じて、コミュニケーション力、調整力を養い、良好な人間関係を構築する力を育む</p> <p>(2) 生徒会活動の充実</p> <p>ア 学校行事の活性化を通じて、生徒の自尊感情を高めるとともに、自主・自立の力を育む</p> <p>イ ボランティア活動や国際交流、地域との交流を通じて社会との関わりの中で成長させる</p> <p>※2020年度までに、「学校教育自己診断」の生徒肯定率で、「生徒会活動に積極的に参加」を85%以上に(H29:84%)、「部活動が活発」を90%台維持(H29:90%)「友好的な人間関係の構築」で「そう思う」60%台(H29:56%)を目標とする。</p> <p>4. 学校力の向上</p> <p>(1) 組織で課題に取り組む体制づくり</p> <p>ア 運営委員会を中心に、課題の明確化、情報の共有、組織間の連携を促進し、教職員一人ひとりが学校経営参画意識を持つ</p> <p>イ ミドルリーダーの育成、経験の浅い教員の校内研修等、教員力の向上に努める</p> <p>ウ 働き方改革 生徒の下校時刻19時を守らせ、一斉退庁日以外も退庁時刻を意識する</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>ア 学校の魅力を発信するWebページの充実と説明会の内容充実、「花園PRESS」の活動の発展等学校全体で推進する</p> <p>※2020年度までに、「学校教育自己診断」の「各組織の連携」教職員の肯定率50%台維持(H29:51%)、選抜における志願倍率の維持</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・生徒・保護者とも「家庭学習の習慣」49%(数字はいずれも肯定率)で、昨年度の50%を切っている。教職員が「自学自習の習慣をつけるため様々な工夫」65%に対する成果としては物足りない。個々の生徒・保護者が何を基準に判断しているかもあるが、学習時間の少なさから考えるとさらなる工夫が必要であろう。</p> <p>・教職員の「情報の共有」が53%(H29:47%)、「課題検討の場として機能」69%(H29:59%)など運営委員会を中心に注力してきた成果が表れてきた。社会の変化等に対応していけるようさらに留意したい。</p>	<p>第1回(7月3日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営計画を新カリキュラムにどう取り込んでいくかが大切 <p>第2回(11月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上に力を入れていることを感じた。取組の工夫を共有したうえで互見授業を実施すればさらに効果的である。 ・ラグビーW杯の取組は地域の自治会も取り組みたいのでぜひ連携を。 <p>第3回(3月6日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの防止等に素早く対応できていることはよい。良好な人間関係の構築やSNS

等の問題について引き続き対応を。

- ・学校教育自己診断の肯定率で、学校組織に関する肯定率が上がっていることは素晴らしいことだ。
- ・新学習指導要領や国際教養科の再編との新たな課題に、チーム花園として取り組んで行ってほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援	(1) 学力の向上 ア 授業力向上の取組	(1) ア・授業の「めあて」「振り返り」を明確にし、わかりやすく力の着く授業・双方向の授業を心がける。 ・互見授業・公開授業・研究授業を促進し、授業の課題解決への議論を活発に行う。 イ・1、2年次各2回到達度テスト(英数国)を全員実施し、分析会を行い基礎学力の定着の取組を行う。	(1) ア・授業に関する校内研修 年3回実施 ・互見授業全教員の参加 全教科公開授業実施 ・学校教育自己診断「授業に集中」生徒の「そう思う」40%維持(H29:38%) イ・分析会年2回実施 ウ・朝学の内容見直し ・実力テストや模試の活用 ・動画学習の導入 ・学校教育自己診断「自学自習の習慣がついた」50%以上(H29:50%)	(1) ア・職員会議の場で各学期の互見授業や授業アンケートの結果を共有 3学期に各教科で授業のポイント確認(○) ・互見授業全教員参加 全教科公開授業実施 他校からの見学もあった(◎) ・そう思う「42%」(肯定率は86%) (◎) イ・分析会2回実施 各教科が到達度をデータで把握し、低い項目を復習させる。特に1年生は自学自習の習慣づけのために活用。(○) ウ・朝学の体制は安定し、各教科で教材の工夫を行っている(◎) ・志望校検討会(模試等のデータ活用)を初めて実施◎ ・動画学習 希望者のみから全員へ広げ、活用を試み始める(△) ・49%(△) 教科の取組や生徒の意識は以前より上がっていると感じるので、粘り強く取り組みたい。
	(2) キャリア形成の段階的支援 ア 効果的な進路指導の実践	(2) ア・探究的な活動も含めた進路指導戦略をより具体化し、全教員で共有して指導にあたる。 ・小論文やプレゼンを活用した入試の指導体制を確立する。 ・「総合的な学習の時間」等を活用したキャリア形成支援の取組を整理・改善する。	(2) ア・各取組の情報共有の推進:進路指導部・ビジョンチーム主催の勉強会実施 ・小論文等研修2回実施 ・これまでの取組を整理し、より有効な時期・内容に改善 ウ・学年団の参画 半数以上 ・発表会実施 ・取り組みへの生徒の参加数のべ300人 ・学校教育自己診断生徒肯定率「探究学習を通じて成長した80%台後半維持(H29:88%) 「進路意識の確立」78%前後維持(H29:78%)	(2) ア・2年目となり学年での取組体制も徐々にできてきた。ビジョンチームをキャリア支援PTに変え、次年度以降も含めて検討。2月にSDGs勉強会実施(○) ・研修2回実施。取組2年目。国公立にAO等で3名合格(◎) ・進路指導部とも連携し、進路探究としての流れを明確化 さらに次年度以降についてPTで検討(○) ウ・副担の参画により、スムーズな運営や次への発展につながる(○) ・1・2年は、学年発表会を実施 予定していなかったが、3年はクラス発表会を実施(◎) ・生徒の参加数のべ414名(◎) ・「探究学習を通じて成長した」88.4%(○) 「進路意識の確立」77%(H29:78%)(○)
	(3) 社会性の育成と学習環境の整備 ア 挨拶の励行とマナーの徹底 ウ 校内美化の推進	(3) ア・挨拶の励行とマナーの徹底 ・遅刻防止指導の強化 ウ・保健委員会の活性化 ・クリーンアップキャンペーンの定着	(3) ア・挨拶運動 2回以上 ・遅刻数の減少:前年度比5%減(H29:2812) ウ・点検各学期1回 ・参加者の増加	(3) ア・挨拶運動 2回実施(○) ・遅刻数 2888(×) 6割の生徒が遅刻1回以下だが、5回以上が3割。重点指導が必要 ウ・点検各1回 保健委員会でアクティブラーニングの手法を使い、ごみの分別等について学習(◎) ・例年の学校のみでなく、東大阪市と連携してクリーンアップ運動に参加(◎)

府立花園高等学校

2. 英語教育・国際理解教育の一層の充実	<p>(1) 英語四技能を総合的に伸ばす ア 英語教育体制の構築</p> <p>イ 様々な資格取得に挑戦</p> <p>ウ 海外語学研修や留学の奨励</p>	<p>(1) ア・英語 WG を中心に、四技能を総合的に伸ばす 各科目の授業内容・方法の検討、ソロ NET の活用方法の研究</p> <p>イ・英語検定、英語学力調査、TOEIC 等の資格取得に挑戦させる</p> <p>ウ・海外語学研修 事前・事後指導の充実 ・留学説明会の実施</p>	<p>(1) ア・両学科の三年間の授業内容の完成、ソロ NET の活用案の作成</p> <p>イ・英検準 2 級以上の合格率 40% 台後半維持 (H29:47.9%) ・英語学力調査分析会実施 2 回 グレード 4 以上 20% 台維持 (H29:23.9%)</p> <p>ウ・海外語学研修後の発表の機会 2 回 ・留学説明会開催</p>	<p>(1) ア・WG を中心に四技能を総合的に伸ばす三年間の授業計画完成、各授業内容の目線合わせを進める(◎)</p> <p>イ・英検準 2 級以上の合格率 48%(○) ・分析会 2 回実施 授業での対策を検討(◎) ・グレード 4 以上 27.2%(H29:23.9%) (◎)</p> <p>ウ・中学生向けと、校内と発表 2 回(○) ・説明会 1 回開催 留学生 3 名 (◎)</p>
3. 地域との連携や社会との繋がりによる人間力の育成	<p>(1) 自主的な活動の活性化 ア 良好な人間関係の構築</p> <p>(2) 生徒会活動の充実 イ 社会との関わりの中での成長</p>	<p>(1) ア・生徒会執行部を中心に、各種委員会の活性化 ・部活動の活性化</p> <p>(2) イ・様々な活動に積極的に参加させ、社会との関わりの中で、人間力を鍛える</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の生徒の肯定率「行事へ積極的に参加」80%台維持 (H29:84%) ・部活動入部率 70%前後 (H29:70%)</p> <p>(2) イ・学校外での活動に参加：生徒のべ 200 人 ・2019 ラグビーワールド杯プロジェクト：参加生徒のべ 50 名以上 発表の機会 1 回</p>	<p>(1) ア・「行事への積極的参加」83%(H29:84%) (○) ・部活動入部率 72% (H29:70%) (◎)</p> <p>(2) イ・参加生徒のべ 464 名(◎) 高齢者施設・子育て支援 (NPO)・地域の商店街・釜ヶ崎 FW 等 ・ラグビーワールド杯プロジェクト 参加のべ 65 名◎ 発表の機会 3 回 (◎)</p>
4. 学校力の向上	<p>(1) 体制の強化 ア 体制の強化・学校運営参画の推進</p> <p>イ 人材育成</p> <p>(2) 広報活動の充実</p>	<p>(1) ア・2 名の首席が、各担当を統括し、情報の共有や連携を促進する ・運営委員が、各分掌・委員会において、課題の共有、議論の活性化に勤め、組織としての動きをスムーズにする ・PT や WG に多くの教職員が参加できるように人材を配置する</p> <p>イ・PT や WG のリーダーや取組の中心を担うなど、経験を積む機会を増やす ・校内研修や勉強会、各取組を通して、経験の浅い教員の力を高める</p> <p>(2) ア・Web ページの改善 ・学校説明会の内容充実 情報媒体の刷新と生徒の発表機会の増加 ・「花園 PRESS」の活動の充実</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の教員の肯定率「組織の連携」50%前後維持 (H29:51%) 「意見交換・課題検討の場として有効」50%台維持 (H29:59%) ・PT や WG 参加教員数：のべ 25 名 (H29:20 名)</p> <p>イ・新たな人材の活用：10 名 ・研修・勉強会 各学期 1 回</p> <p>(2) ア・中学生向けページの情報更新：毎月 2 回以上 ・パンフレットの刷新、生徒発表機会の増加：10 名以上 ・「花園 PRESS」生徒による引き継ぎ資料の作成</p>	<p>(1) ア・「組織の連携」53% (H29:51%)、「課題検討の場として有効」69% (H29:59%) この 4 年間学校力の向上を目標に掲げ、運営委員を中心に注力してきた成果(◎) 今後、教員の入れ替わり等にも対応してさらなる向上をはかる。 ・PT や WG 参加 37 名 (◎) 積極的に参加する教員も増えた。</p> <p>イ・11 名 様々な課題に適材適所で配置(◎) ・各学期 1 回 (○)</p> <p>(2) ア・Web ページの更新は精力的に行った。毎月 4 回以上 学校 Web ページもリニューアル(◎) ・パンフレットの刷新 (○) 生徒発表 16 名 (◎) ・PRESS へのアンケートをまとめ、次年度に活かす(○)</p>